

2. 事業の目的と概要

(1) 上位目標

ミンダナオ島ピキット・マリダガオ河沿い地域において、紛争被害に遭った子どもたちの初中等教育環境を向上させ、草の根レベルでの平和を定着させること。

(2) 事業の必要性(背景)

(ア) フィリピン共和国における開発ニーズ

フィリピンミンダナオ島では、現在まで続く政治的な武力衝突と地域レベルでの「暴力の文化」により、人々や地域の可能性は妨げられ、同国において貧困率、実質地域総生産(GRDP)、またその保健・医療環境、教育インフラ等の全てにおいて同国の最低水準となっている。これに対し、フィリピン政府は、「フィリピン開発計画 2011-2016」を策定し、その中で「ミンダナオの平和構築」を最優先事項の1つとして掲げるとともに、2012年にモロイスラム解放戦線(MILF)と「和平への枠組み合意」がなされ、2015年の最終合意に向けて協議が進められている。

(イ) 町レベルでの事業の必要性

ミンダナオ島の紛争多発3地域の1つに同島中部に位置するコタバト州ピキット町がある。町の人口は約10万人で、多くはイスラム教徒であるマギンダナオが73%、多くはキリスト教徒であるセブアノが25%を占める。この地域では子どものケンカや隣近所での家畜を巡る口論でさえも、大きな氏同士の武力衝突にまで発展する「暴力の文化」が蔓延しており、地域の平和と安定のために、地域に深く根付く「敵意」や「不信感」を取り除くことが求められている。

また、ピキット町において教育レベルが小学校以下のものは、約69%にも上り、マニラ首都圏の28%と比べても極めて多い。学校教育を受ける機会がなかった若者たちは、生計手段の選択肢が狭まり、生計を立てるために(政府・非政府軍として、又は私的軍や強盗集団として)武器を持つことが多い。地域において、「学校教育を受ける権利」の欠如は、平和への妨げとなってきた。

このピキット町は、町の中心部から南部にあるR7(*1)、北西部のG7(*2)、北東部のM7(*3)等のいくつかの地域に分けられる。R7では、申請団体やUSAID等により学校建設が行われ、国道に近いG7では、多くの団体によって、平和活動が行われてきた。一方、町の中心地から離れたマリダガオ河流域のM7と呼ばれている7つの村からなる地域では、長年外部からの介入は限られ、校舎は荒廃し、また平和活動に参加する機会は著しく制限されてきた。

このM7は、同町人口の21%を占め、マリダガオ河流域の7つの村で構成されている。98%の人口がイスラム教徒マギンダナオ族でもあるこの地域では、長年外部からの介入も平和活動も行われてこず、子どもや大人が共に心の傷を癒し、地域レベルの平和的紛争解決を促進する機会が求められてきた。

(ウ) フェーズ1、フェーズ2の進捗

2011年11月より当団体は、3年計画に基づき、この7つの村において「紛争被害に遭った子どもたちの初中等教育環境を向上させ、草の根レベルでの平和を定着させること」を上位目標に活動を行ってきた。現在実施中のフェーズ2では、予定のバラバック村、バラティカン村、ヌグアン村の3つの村において学校の建築や平和教育

教育達成率 (2007)	ピキット	マニラ (NCR)
無就学経験	19.2%	3.7%
幼稚園以下	3.1%	2.3%
小学校以下	46.8%	22.3%
中学校以下	21.7%	37.4%
大学以上	7.9%	28.5%
データなし	1.4%	2.4%

(*1):R7:Barungis, Bulol, Bulod, Kabasalan, Talitay, Buliok, Bagoinged

(*2):G7:Ginatilan, Nalapaan, Panicupan, Lagunde, Dalengaoen, Takepan, Kalakacan

(*3):M7:Tinutulan, Balabak, Gototan, Nabundas, Balatikan, Balungis, Nunguan

	が順調に進んでおり、2013 年 10 月までに同 3 村にある 5 つの小学校と 1 つの中学校が、教育省から「平和の学校」の認定を受ける見込みとなっている。また、教育省はフェーズ 2 によって触発され、フェーズ 2 で建設された学校では、教育省予算で追加の教室も建設が既に予定されている。子ども達は、自らが積極的に平和を作り出す担い手となることで、学校や地域に平和がもたらされることを実感している。 (エ) フェーズ 3 の必要性 フェーズ 1、2 で事業を実施した 4 村の周辺に位置するバルンギス村のマリク小学校は 400 名の生徒に対して、教育省基準適合のコンクリート製の教室は 0 (全校舎数は 6)、ナブンダス村の小学校では 366 名に対して 4 (全校舎数は 9)、ゴコタン村の小学校では 510 名に対して 7 (全校舎数は 9) となっており、その他は竹でできた小屋や老朽化して雨期には水が浸水してしまう教室、ステージを使用している。長年続いた紛争による破壊等により、既存の校舎の荒廃は著しく、入学した子どもたちの多くが途中で通学を止めるケースが相次いでいる。 この 3 つの村の小中学生、教師、地域の大人たちは、現在実施中のフェーズ 2 の事業において、10 月に行われる「平和の学校準備研修」に参加し、平和の概念や平和の学校のコンセプトについて学ぶ予定である。同村では、村内のグループの対立により争いが絶えなかったが、「平和の学校」の導入でこうした対立関係が改善されることが求められている。
(3) 事業内容	活動内容 ハード 3 村 3 小学校での校舎建設 (参考資料: 別添 1~4) (ア) マリク・メモリアル小学校 (バルンギス村) の新築 1 棟 2 教室の建築と備品整備 (イ) ナブンダス小学校 (ナブンダス村) の新築 1 棟 2 教室の建築と備品整備 (ウ) ゴコタン小学校 (ゴコタン村) の新築 1 棟 2 教室の建築と備品整備 ソフト 「平和の学校」を作る活動 (参照資料: 5~7) (エ) 「平和の学校」(SOP: School of Peace) 研修 バルンギス村、ゴコタン村、ナブンダス村の小中学校における平和教育研修及びフェーズ 1、フェーズ 2 で実施済の 4 地域 (ティヌトゥラン村、ヌグアン村、バラティカン村、バラバック村) におけるフォローアップ研修の実施。 1、小・中学生対象 (b) (c) (d) は同じ参加者を対象 (a) 「尊厳と権利」「コンフリクトマネジメント」 (子どもの権利や紛争解決等の概要研修) 50 名×7 校×2 日 (b) 「人生と平和」(生活体験を通して考える平和の文化研修) 12 名×7 校×4 日 (c) 「ピアメディエーションによる平和的アプローチ」 (子どもたち同士の間での紛争調停方法の研修) 12 名×7 校×4 日 (d) 「平和を創る力」(平和を作るリーダーシップを育む研修)

	12 名×7 校×4 日 2、教師対象：(a) (b) (c) は同じ参加者を対象 (a) 「心と平和」(子どもの心のトラウマへの対応方法研修) 40 名×4 日 (b) 「授業計画作成研修」(平和教育授業案の作成) 44 名×4 日 (c) 「学校と平和」(紛争解決の平和的アプローチ研修) 40 名×4 日 (d) 「平和教育トレーナー研修」(平和教育研修実施の技術指導) 42 名×4 日×3 回 3、地域リーダー対象： (a) 「紛争解決のための平和的アプローチ」 (平和的紛争解決のさまざまな技法の研修) 24 名×7 日 (b) 「平和的自治とファシリテーションの技法」 (村の平和促進の方法と実施能力強化研修) 24 名×4 日 4、子ども、教師、地域全体を対象： (a) 「平和の学校」宣言式 研修を終了した各校が教育省より「平和の学校」証書を受けとり、「平和の学校」宣言式を行うことで、地域内外に「平和の学校」の啓発を実施。 (オ) 「ミンダナオ子ども議会」の開催 マギンダナオやマノボ、マラナオ、ビザヤ等多文化多民族の子どもたちによる相互信頼醸成活動及びミンダナオの将来について話し合う研修。41 名(子ども 33 名、教師 8 名)×5 日 中長期計画 当事業は、3 年計画の 3 年目に該当する。このフェーズ 3 を通じて、ピキット北東部 7 村全域において、教育環境が目に見える形で改善され、同時に地域において紛争を回避し、解決する技術を得る方法が「平和の学校(School of Peace)」という形で制度化されることで、同地域に平和がもたらされることが期待される。事業終了後は、この 7 村がミンダナオ島紛争地における平和活動のモデル地域として機能していくことが期待される。
(4) 持続発展性	教室や備品の維持管理は、管轄であるピキット北部教育省が行う。これに対し、MOOE (Maintenance and Other Operation Expenses) 予算措置、生徒数増加に見合った教師の増員を含む維持・管理について、教育省コタバト事務所と合意文書を交わす。平和活動は、教育省と協働しカリキュラムに加える予定である。当法人が、事業終了後最低 5 年間は使用状況のモニタリングを行う。
(5) 期待される成果と成果を測る指標	(成果 1) マリク・メモリアル小学校、ナブンダス小学校、ゴコタン小学校の約 300 名の子どもたちの教育環境が整えられている。(指標 1) 事業終了時、同校の 300 名以上の子どもたちが、教育省基準に従った教室で、自分の机と椅子を使用し、学ぶことができている。(建築後のモニタリングシートにて確認) (成果 2) バルンギス村、ナブンダス村、ゴコタン村にある小学校と中学校が、「平和の学校」宣言を行っている。(指標 2) 同校に置いて、宣言式が行われ、且つ教育省から「平和の学校」証明書が発行されている。(活動記録及び証明書の存在にて確認)

	(成果 3) 300 名以上が暴力に頼らない争いの回避方法を知っている。(指標 3) 研修終了時のアセスメントシートにおいて、300 名以上が暴力に頼らない争いの回避方法を回答している。(アセスメントシートにて確認) (成果 4) 子どもたちが、ミンダナオのビジョンを表現し、それに向かって取り組む用意が出来ている。(指標 4) 30 名以上の子どもたちが、「ミンダナオ子ども議会」の中で将来の望むべきミンダナオの姿について発表し、その実現に向けた各人の具体的なコミットメントを表現できている。(活動記録にて確認)
--	---